

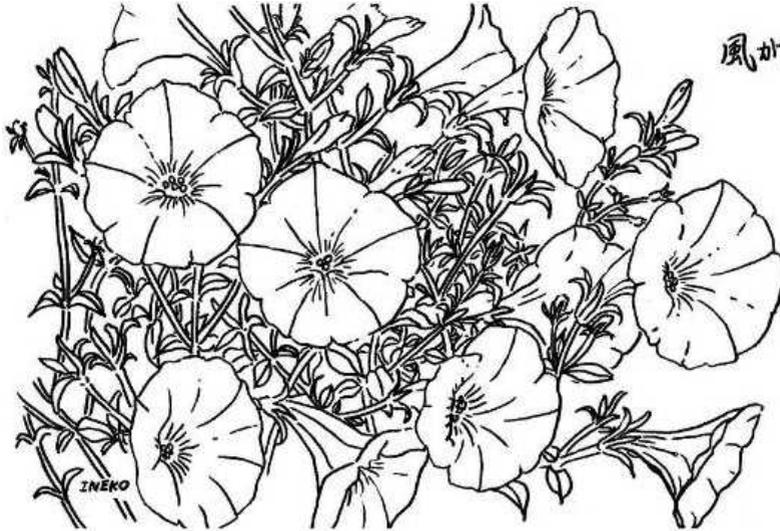
2010年4月15日発行（隔月刊）



う 羽 化 か

ISSN1880-8646
2010年4月
第79号

横 浜 漢 点 字 羽 化 の 会
〒231-0851 横浜市中区山元町2-105 Tel 045-641-1290
発行責任者 代 表 岡 田 健 嗣
編集責任者 木 下 和 久



風が暖かい

目 次

漢点字の散歩（18）（岡田健嗣）	1
点字から識字までの距離（75）（山内 薫）	7
御 礼（岡田健嗣）	10
東京漢点字例会報告とわたくしごと（木村多恵子）	12
東京漢点字学習会報告（菅野良之）	16
見果てぬ夢を（19）（山本優子）	21
漢文のページ	25
漢点字講習用テキスト（初級編・第19回）	27
ご報告とご案内	29
一口メモ・編集後記（木下和久）	30

漢点字の散歩（十八）

岡田 健嗣



故・川上泰一先生が〈漢点字〉を世に問うてから、早くも四十年が経ちました。

漢点字発表当初は、川上先生のご指導によって、常用漢字を習得する視覚障害者が沢山生まれました。

しかし残念ながら先生は、平成六（一九九四）年に、その道半ばで世を去られました。そして先生の、視覚障害者の言語能力を向上させようという目論見は、未だ達成されぬままです。先生のご尽力に報いられずにおります現状を思いますと、誠に慙愧に堪えません。

そこで本会では、かつて川上先生がお作りになられた「漢点字入門」を参考に、〈漢点字〉のあらましをご紹介します。パンフレットを製作しようと考えました。

以下何回かに分けて、「漢点字紹介」としてお届け致します。

読者諸兄姉のご鞭撻を賜れば幸甚です。

漢点字紹介（一）

1 川上泰一先生

川上泰一先生は、大正六（一九一七）年、愛媛県にお生まれになりました。戦時中、軍の飛行機のエンジンアを経て、戦後大阪府立盲学校に奉職されました。図らずも視覚障害者の教育に一生を捧げられることになったのでした。

図らずも申しますのは、先生は盲学校を農学校と聞き違えられたとのこと、「盲」を「農」と聞き違えて、訪ね訪ねて府立盲学校に来てみれば、視覚障害者だけが学ぶ学校だったということだったそうです。

それまで視覚障害者（当時は「盲人」と呼ばれていました）とお付き合いましたことがなかった先生は、見るもの聞くもの珍しいことばかりで、目をくるくるさせておられたようです。

中でも驚いたのが、視覚障害者が使う文字でした。その文字は「点字」と呼ばれて、指で触れて読むものでした。その点字には「漢字」がなく、それどころかひらがなとカタカナの区別もなかったのです。

しかも視覚障害者の多くが職としてゐる鍼・灸術は漢方医学を基礎としているし、西洋医学の基礎である解剖学や生理学、病理学なども、その用語は漢方医学

に由来するものが多く、ほとんど漢字を使わなければ表せません。盲学校では職業校としてそのような医学と技術を教えていました。よく見ていると、生徒たちはお経を暗唱するように、解剖学も生理学も病理学も、漢方医学や経穴学も、暗唱し暗記していたのでした。

驚いてばかりはいられません。冷静に考えてみれば、点字に漢字がないということは、視覚障害者は漢字を学ぶ機会を奪われていることでもあります。鍼灸医学を充分学べないばかりではなく、いわゆる一般教養も不十分であるに違いありません。視覚言語である「文字」の担っている役割は社会の隅々まで及んでいて、人は文字を使いこなすことで、社会人としての責任を果たしていると言っても過言ではありません。してみると、漢字を学ぶ機会が与えられていないということは、視覚障害者は一人前の社会人になるチャンスを奪われていることだとお気づきになられたのでした。

「では誰かが触読できる漢字を作らねばならない!」、
「誰か?おれしかないではないか!」

川上先生の苦闘が始まりました。「大風呂敷」があなた名になりました。

着眼点は六書

まずは漢字の勉強だ。漢字を眺めていると、面白い

ことに気づきました。何か基本的な文字があつて、それらが集まって別の文字を作る。別の文字と言つても、音や意味が関連している。これには法則があるに違いない、それは何だろうか?

漢和辞典には「象形」とか「会意」とか「形声」とかと文字を分類しています。そこで詳しく調べると「六書」という、漢字をその成り立ちから六つのグループに分類していることが分かってきました。

「六書」は、最も早くは後漢の許慎きよしんが著した「説文解字せつもんかいじ」に現れる分類法です。「象形・指事・会意・形声・転注・仮借かしや」と呼ばれます。

「象形」は、ものの形を写し取ることで、「人・大・木・水・日・月・光」などの文字があります。「指事」は事物の關係を示すもので、「上・下・本・末」などの文字があります。「一・二・三・十・百」などの漢数字もこの中に入ります。「会意」は象形や指事の文字を組み合わせて新しい意味を表すもので、「愛・安・見・垂・寸・明・相・林・森」などの文字があります。「形声」は音符によつてその文字の音を表すもので、「雲・経・征・性・省・転・満」などの文字があります。文字の左側に水に関する文字には「さんずい」、人に関する文字には「人偏」、樹木や木製の器物に関する文字には「木偏」が位置して、右側に旁

と呼ばれる文字の要素が位置する構成になっていきます。「転注」は充分明らかではなく、研究者の間でも解釈の一致が見られていません。「仮借」は、字形として表すのが困難なもので、同じ音の文字を音だけ借りて用いるもの、「我・彼」などの代名詞や、「東・西」などの方位を表す文字があります。「予、余」を「我」の意味に使用するのも、仮借的な用法です。この仮借は、漢字の構成上の分類ではなく、用法上の分類です。（「白川静著『常用字解』、平凡社、2004年」より）

この「六書」のうち「転注」と「仮借」は、構成上の分類ではないことから別にして、「象形・指事・会意・形声」の構成を参考に、川上先生は、点字符号で漢字を表そうと試みられました。

2 点字

① ルイ・ブライユと点字

「点字」はいつころから使われていたのでしょうか？

文字は、人間の歴史とともに現在に伝えられています。そうではなく、文字が人間の歴史を伝えてきました。文字よりも人間の歴史の方がずっと古いのですから、文字が歴史を伝えることを役割の一つとして誕生

したと考えるのもよいようです。現代に生きる私たちにとって、その文字の誕生を考えることには、不思議な魅力を感じます。

「点字」はと言えば、その発生は大変はつきりしていません。1825年に、フランスの片田舎の盲学校で、当時16歳であった全盲のルイ・ブライユ（1809〜1852年）という少年が作りました。その構成は、今から見れば実にコロンブスの卵のように見えませんが、これが誠に画期的なものでした。

目的もはつきりしていません。それまでフランスの視覚障害者が使っていた文字は、板にアルファベットを浮き出させたものを指で触れて読むもので、文字一つ一つを判読するのがやっとなりました。文字を区別できるだけということは、語や文までは読み取ることができなかつたということを意味します。語や文が読めなければ、文字が分かっても学業や文学鑑賞には不十分でした。ブライユたちは、読めない文字を前に、ずっと悩んでいました。

そんなある日、当時の陸軍の、夜間に用いる触知暗号を見る機会に恵まれました。当時の夜は、闇が深かつたので、指で触れて読む暗号が、大変有効だったのです。その暗号は、点や線を浮き出させたもので、その配置によって単語や記号を表すものでした。語の数

は少なくとも、命令や伝言を伝えるには充分でした。その触知暗号が、ブライユの頭に、ある閃きを与えたのでした。こうして「点字」は、今から約200年前に誕生しました。

(次ページブライユの点字表、参照)

ブライユが考案した点字の一覧を見ると、その構成の単純さに驚かされます。しかしコンピュータ時代の現在から見れば、何と先進的だったことでしょう！点字が「ある／なし」で文字を表す、正にデジタル時代を先取りしていると言っても過言ではありません。

点字は縦3点・横2列を単位として構成されます。その単位は「マス」と呼ばれます。しかしよく見ると、1列目は1マスの上の4つの点しか使っていません。この4つの点で10個の点字符号を表しています。2列目・3列目・4列目は、それぞれ下の2つの点を加えて、その「ある／なし」で区別しています。5列目は、1列目の4つの点を下に下ろした位置の4つの点で表しています。ブライユは、この50個の点字符号を定めました。残りの13個の符号は、後の点字の発展の過程で、略字や補助記号に用いられるようになって行きます。

アルファベットは26文字（当時は25文字で、Wはまだ確定されていませんでした）、ブライユの点字符号

は50個です。その前半分をアルファベットに当て、残り文章記号に当てても充分間に合いました。

このようにしてブライユの点字は一応の完成を見ました。しかし、ブライユが生きている内には、その普及は見られませんでした。かれは43歳の若さで、肺結核のためにこの世を去りました。

彼の死後その死を悼むひとびとによって、点字の普及運動が展開されて、欧州各国語に適合した点字が開発されて、現在では世界何処でも、その言語の表記に合った点字が使用されるようになりました。

そして「点字」は、創案者のルイ・ブライユの名に因んで、“BRAILLE”と呼ばれるようになりました。

② 石川倉次先生と日本語点字

ルイ・ブライユの点字は、開国間もない明治の我が国に、欧州先進国のスタンダードとして、社会制度や教育制度の1つに数えられて輸入されました。視覚障害者をも教育の対象と捉えることが、独立国として認められる条件の1つだったのでした。

国は明治21（1888）年に、当時東京盲啞学校の教諭だった石川倉次先生に、日本語を表記する点字の開発を委嘱しました。明るる年には一応の完成をみ



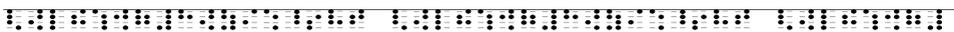
て、明治23（1890）年に、「日本語点字」として、認定されました。（石川倉次の「日本語点字」、参照）

石川先生がお作りになった「日本語点字」は、現在も変わらず使われています。通常「カナ点字」と呼ばれますが、その構成は、ローマ字に依拠しています。石川先生が日本語を表す点字を翻案するのに着目したのは、勿論ルイ・ブライユの点字でした。そして当時欧米から多くのひとびとが来日して、日本語をアルファベットで表すようになりました。これが今日言われるローマ字で、石川先生はこの構成を点字に生かされました。

ローマ字は50音表を利用して、5つの母音「アイウエオ」

ルイ・ブライユの点字表

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
1 :	⠁	⠃	⠉	⠇	⠑	⠋	⠒	⠎	⠊	⠅	Upper4
	Aa	Bb	Cc	Dd	Ee	Ff	Gg	Hh	Ii	Jj	
	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	
2 :	⠋	⠃	⠉	⠇	⠑	⠋	⠒	⠎	⠊	⠅	+ ⠁
	Kk	Ll	Mm	Nn	Oo	Pp	Qq	Rr	Ss	Tt	
	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	
3 :	⠋	⠃	⠉	⠇	⠑	⠋	⠒	⠎	⠊	⠅	+ ⠁
	Uu	Vv	Xx	Yy	Zz						
	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	
4 :	⠋	⠃	⠉	⠇	⠑	⠋	⠒	⠎	⠊	⠅	+ ⠁
										Ww	
	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	
5 :	⠋	⠃	⠉	⠇	⠑	⠋	⠒	⠎	⠊	⠅	Lower4
	51	52	53	54	55	56					
6 :	⠋	⠃	⠉	⠇	⠑	⠋					
	57	58	59	60	61	62	63				
7 :	⠋	⠃	⠉	⠇	⠑	⠋	⠒				



と、それに子音を加えた「カ行・サ行・タ行・…」と分類し一覧になっています。50音表は、仏教とともに輸入された梵語を利用して、奈良時代に作られたと考えられています。しかし明治に入るまでは、一般にはあまり用いられませんでした。

石川先生はルイ・ブライユの点字の一覧の1列目が、10個の符号でできていることに注目しました。どうして10個か？それは1マスの6つの点のうち、上4つを使って組み立てられているからに他なりません。日本語の母音は5個、半分の数で間に合います。そこで1点減らして、左上3つの点で5つの母音を表すことにしました。

ローマ字の子音は9個です。そのうちヤ行とワ行は別の処理をすることにすれば、マスの右下の3つの点の「ある／なし」で、K・S・T・N・H・M・Rの7つの子音が表せることになります。

それに濁点・半濁点・拗音を加えて、石川倉次先生の「日本語点字」は完成しました。

ただし先にも述べましたように石川先生は、漢字を表す点字には手をお付けになりませんでした。川上先生が盲学校に赴任なさるまで、誰も漢字を表す点字の製作には、手をお付けになりませんでした。

(続く)

石川倉次の日本語点字

ア行	ア	イ	ウ	エ	オ	カ行	カ	キ	ク	ケ	コ	(⠠K)
サ行	サ	シ	ス	セ	ソ	タ行	タ	チ	ツ	テ	ト	(⠠T)
ナ行	ナ	ニ	ヌ	ネ	ノ	ハ行	ハ	ヒ	フ	ヘ	ホ	(⠠H)
マ行	マ	ミ	ム	メ	モ	ヤ行	ヤ	ユ	ヨ			
ラ行	ラ	リ	ル	レ	ロ	ワ行	ワ	ヰ	ン			

点字から識字までの距離（七五）

墨田福祉作業所への出張貸出（二）

山内薫（墨田区立あずま図書館）

先のアンケートのなかの、持ってきてほしい資料という欄には、一五名の方が希望の資料を記入して下さいました。そこには以下のような本やCDが記されていました。（表記の通り）

- ★相撲の本、野球の本、ボーリングの本、石川さゆり「津軽海峡冬景色」、大川栄作「さざんかの宿」
- ★仮面ライダーの本
- ★電車の本
- ★幼児用の絵本（乗り物）
- ★かわいそうなぞうさん “ないたあかおに” アニメのCD
- ★落語のテープ・カセットテープの資料
- ★上地ゆうすけの写真集、ヘキサゴンのクイズの本
- ★ビーズの本
- ★SMAP、Kinki Kids
- ★サムライハイスクールJIN、小公女セーラ、名探偵コナン
- ★ポニョ、プリキュアなんでもいいです。おねがいし

ます。

★灰谷健次郎の童話

★東京デイズニールンドの本

★嵐、SMAP、Kinki Kids、

★嵐のCD、コナンのマンガ

これら個人のリクエスト資料については、事前に集められる資料は用意し、アンケート用紙と一緒に輪ゴムで留めて個人別にまとめ、第一回の貸出日を持って行った。

先日の懇談会の時の希望やアンケートの希望資料など、又ふれあいセンターやさんさんプラザで人気のある資料などを勘案して、団体貸出用の青箱に五箱分ほどの資料を用意した。なお一月から三月までの三ヶ月は墨田福祉作業所の車が貸出日の当日の朝九時過ぎに寺島図書館まで資料を取りに来て下



輪ゴムで個人別にまとめたリクエストの資料

さりと、福祉作業所まで運んでもらえることになった。また貸し出されなかった資料や、返却された資料については、翌日寺島図書館に届けて頂ける手はずになった。

いよいよ、一月一二日の当日、玄関の左側の壁に机二台、正面に一台、奥の左の保健室前に一台の計四つの机に本を並べていった。CDと大活字本と拡大写本は玄関正面のガラスの陳列ケースの上に並べた。ところがCDは三〇枚ほどしかなく、他施設での貸出状況から見てとても足りそうにないので、急遽寺島図書館まで行って、追加の四〇枚ほどを持ってきた。

お昼休みのベルが鳴ると皆さん二階の作業室から一



CDを選ぶ



12時半の盛況時

階の食堂に降りてこられ、事前に作成しておいた希望者のかしだし券を職員の方に渡し、一人一人に手渡していたのだいた。

貸出用に小型のハンデイスキャナーを持って行ったのだが、充電がうまくなされておらず、結局手書きで、利用者のかしだし券の番号と資料のバーコード番号を紙に書いて貸し出しすることになった。初回なので寺島図書館二人、あずま図書館三人、八広図書館二人の計七名の職員が貸出にあたったので手際よく貸出は進み、一二時半頃がピークで、一二時四〇分には貸出も一段落した。その時、利用者のIさんが、突然大きな声で「今日も無事に終わりましたので、ここで三本締めで締めたいと思います。それでは皆様、お手を拝借、よー！」とかけ声をかけ、そこにいた作業所の利用者と職員、我々図書館員みんなで手打ちを行ったのだった。こちらも調子に乗って「来月は二月九日、肉の日に、また参りますので、よろしくお願いします。」とお伝えした。

この日借りられた主な資料は、事前にリクエストのあったものの他に次のようなものだった。

雑誌では、「月刊エアライン」・「デイズニープリンセス」・「デイズニーフアン」・「鉄道ジャーナル」本では「東京デイズニールランド」・「ビーズの

本」・「Mrマリックのちよい魔術」・「松井秀喜ーゴジラパワーの秘密ー」・「野球の本」・「相撲の本」・「鉄道の本」・「電車・自動車の本」・「クイズ！ヘキサゴン問題集」・「仮面ライダーの本」・「日本のおげけ話」・「機関車トーマスの本」など。

その他に最近出版された講談社の「青い鳥文庫ワイド大活字版」が八冊、絵本の拡大写本が三冊、「赤毛のアン」の拡大写本が一冊と文字の大きい本が計一二冊借りられた。

また、来月持つてきてほしいと出されたリクエスト資料は、以下のようなものだった。

- ・ 囲碁・将棋の本・クイズの本
- ・ マンガ「ゲゲゲの鬼太郎」「花より男子」「落第忍者乱太郎」「ドラえもん」
- ・ 長くつ下のピッピの絵本
- ・ るるぶ横浜・鎌倉
- ・ NHKおかあさんといっしょのCD
- ・ プロ野球選手名鑑

・ 週刊ベースボール・航空ファン・鉄道ジャーナル

当日の貸出は、利用者が二五名、借りられた本・雑誌が七五冊、CDが二六点、カセットテープが九点（これは落語のテープ）拡大写本が四冊の計一一四点だった。

最終的に利用登録の案内にかしだし券を作りたいと記入した方と当日借りたいと申し出た方を併せると四名の方が新たなかしだし券を作ったことになる。現在、墨田福祉作業所で働いておられる方は五四名なので六三%の方がかりだし券を作ったことになる。ただ、初日に本やCDを借りて下さった方は二五名なので一〇名（一人は既に自分のかしだし券を持っていた）の方が、資料を借りなかったことになる。

他の授産施設での貸出と比べると貸出点数はやや少なめで、特にCDの貸出が少なかった。



拡大写本を選ぶ利用者

御 礼

岡田 健嗣



私は、2005年の障害者自立支援法の成立に伴って、横浜でも障害者の外出支援事業が名実ともに民間移管されることになって、事業所（有限会社・横浜トランスファ福祉サービス）を立ち上げました。この事業を運営するには、介護福祉士の資格が必須であることが分かり、私も資格の取得が必要だと感じました。

そこで2006年から、NHK学園高等部専攻科の通信教育を受講し、まずは受験資格の取得を目指すことにしました。

専攻科は2年のコースですが、私は科目受講生として入学させていただき、3年目に編入させていただきました。このようにして今年やっと全課程を4年がかりで修了することができました。

この間、先生方には過分のご配慮をいただきました。最も大きなご配慮は、通信教育のレポートの提出方法でした。一般には所定のテキスト、レポート用纸、バーコード・シール、郵送用封筒が配布されて、

それを使用してレポートを提出するのですが、私は電子メールで、添付ファイルで提出することを認めていただきました。それに先だって、レポート用紙の内容をファイルでいただくことになり、そのファイルに解答を記入して返送するという方法を探らせていただきました。全科13科目でしたか、全ての科目のレポートをそのように提出させていただきました。

スクーリングのレポートも同様で、本来講義終了後に記入して提出するのですが、これも帰宅後電子メールでの提出をお認めいただきました。

さらにテキストも、電子データの存在するものは、電子データでいただくことができました。これは最もありがたいご配慮でした。テキストは、全て点訳していただく必要があったからです。

その他、実習のご相談や、色々な手続きや、細々としたご相談などで、細心のご配慮をいただきました。心より感謝申し上げます。

実習では、東京清風園の職員の皆様とご入居されておられます皆様には、短い期間とはいえ、暖かく受け止めていただきましたことに、深く御礼申し上げます。お陰様で無事課程を修了することができました。

そして最後に、横浜並びに東京漢点字羽化の会の会員各位と、トランスファ所属のガイドヘルパー各位に、深く御礼申し上げます。羽化の会会員の皆様は、テキストや試験問題集などの漢点字訳に、ガイドヘルパーの皆様は、スクリーニングや実習の介添えに、力強く私を支えて下さいました。

写真はNHK学園の修了パーティーで証書をいただく



修了証書をいただく



点訳者とヘルパーへの感謝状

きました折の様子と、先生方から頂戴した、点訳者とヘルパーの皆様への感謝状です。

大変ありがとうございました。

受験資格を得て受験しましたが、残念ながら2次試験に失敗しました。来年も挑戦する所存です。ご支援のほどどうぞよろしくお願い申し上げます。

「東京漢点字羽化の会」例会報告と

わたくしごと

木村 多恵子

第51回例会 2010年2月10日(水) 13:30

15:30、ヒューマンプラザ第1会議室

田園調布のボランティアセンターから、岡田さんに講演依頼があり、2010年5月27日木曜日の午後、1時間行うことになった。会員の皆様にもご参加、ご協力をお願いしたい。

岡田さんは、このセンターを中心に活動している「森の会」という、音訳グループのリスナーだったこともあり、そのことと漢点字のお話をなさる予定という。

岡田さんがNHK学園の「介護福祉士」の試験を受け、その報告をした。視覚のハンディキャップについても報告された。

学習会用テキストに出てくる「北斗七星」の形をどう表すか、ひしゃくの形をレーズライターで書き、星の部分をつくらみのあるシールを貼るのがよいとの意見も出たが、結果として、七つの星のところは、強めの丸を付けてくださった。

今日は、また新しい本の入力をお願いした。「石川啄木の歌集」である。本の正式なタイトルと使用する原本については、改めて報告する。

先にかなりまとまった「漢文の読み方」については、小さいグループで仕上げ、「啄木」の本は、これはこれで小さいグループで作っていただくことになった。それぞれご担当くださる皆様よろしくお願い致します。

ここで一つお願いしたいことがあります。例会にご出席いただけない方も、できましたらご自宅で入力をお願いしたいのです。是非お申し出をお願い致します。

本日は入力中のファイルを出して、実際に入力を行うかについては行わなかった。皆さんで話し合うことがたくさんあったからである。実際の入力方法や校正の説明のやりかたを、もう少し皆さんにご理解いただく方法に工夫が必要と考えたからである。

そのほか、漢点字点訳ボランティア講習会を開くに当たっての工夫についても話し合った。

第52回例会、2010年3月10日(水) 13:30

15:30、港区ヒューマンプラザ第1会議室

岡田さんの「介護福祉士」の実地試験についての報告があった。

2010年秋に行なう予定の漢点訳入力ボランティア募集と講習会の大筋の計画について…

一週おきで3回、

1日目、オリエンテーション

2日目、入力の実践。入力 of 宿題。

3日目、宿題の回答、確認と説明。

横浜でも講習会を行うので、できれば東京の会員も見学に行くと、参考になると思う。

「啄木」本は、ほとんどの文字にルビがついているので、これをどうするか。これは見本を入れて、岡田さんに見ていただくことになった。

* 予告

4月の例会(第53回) 2010年4月7日(水)

13…30…15…30、7階第1会議室

第37回学習会 2010年4月17日(第3土曜)

18…30…20…30ヒューマンプラザ7階第1会議室

5月の例会(第54回) 2010年5月12日(水)

13…30…15…30、7階集會室(畳の部屋)

第38回学習会 2010年5月22日(第4土曜)

18…30…20…30ヒューマンプラザ7階第1会議室

6月の例会(第55回) 2010年6月9日(水)

13…30…15…30、7階第1会議室

第39回学習会 2010年6月19日(第3土曜)

18…30…20…30ヒューマンプラザ7階第1会議室

わたくしごと

我が背子を大和へ遣るとさ夜更けて

あがらきつゆ 暁露にわが立ち濡れし

(万葉集 2・105 大伯皇女)

二人行けど行き過ぎかたき秋山を

おおくのひめぎ いかにか君が独り越ゆらむ

(万葉集 2・106 大伯皇女)

この2首は『万葉集』の中で、かなり有名な歌である。高校の教科書で読まれた方は多いと思う。中にはいつの間にか、この歌を口ずさんでいる方もいるかもしれない。わたしもそのひとりである。

西暦686年、天武天皇崩御後、時代が持統天皇に移ろうとしていた頃、大津皇子の謀反が発覚し、皇子は、伊勢の斎宮を勤めている大伯皇女に密かに、最期の別れをするために伊勢へ下って来た。そのとき、弟の身を案じながら、皇子を見送る大伯皇女が悲しんで詠んだ歌がこの2首である。

歌の背景はともかく、歌そのものの意味はとても分かりやすい。

凍えそうな白々明けの中に、独り、女性が、道の遠くを伺うように見ながら佇んでいる。現実の寒さと、もうこれきり会えなくなる弟との別れの辛さと、皇子

が謀反など起こしているとは信じがたく、不安と恐怖とで、寒さは一層身に染みて震えている。〈秋山〉とあるので、真冬の寒さではないまでも、「曉露にわが立ち濡れし」とあるから、冷たく濃い朝霧がたちこめていたのだと思う。どれほどの長い時間、ひとり佇んでいたのだろう。馬の蹄の音はとつくに聞こえなくなっている。いや、もしかしたら白々明けから、周りの風景がはつきり見分けられるほどの明るさになるまで呆けたように立ちつくしていたかもしれない。

皇子の謀はかりごとが本当なら完全に殺されてしまうのだ。わざわざ皇子が伊勢まで来たのだから、覚悟をしなければならぬ。もしかしたら齋宮としての立場も変わるかもしれない。想いは千々に乱れたであろう。この体も心も強ばって杳然としている彼女が、ふと皇子が今現実に山越えをしていることに想いが移り、この2首目が生まれたのである。この歌には何の説明もいらぬ。すんなり心に伝わってくる。

わたしは、とくにこの2首目がいろいろな場面に胸に浮かんでくる。大切な人を遠くへ旅立たせるとき、母が子を独立させるときでさえも、相通するものがありはしないだろうか。

最近、白川静氏の『初期万葉論』（中央公論新社）を読む機会を得た。「横浜漢点字羽化」の方々が入力

してくださったものである。

白川氏は、『万葉集』について語るとき、『万葉』と、中国の『詩経』の成立年代において、『詩経』は前9世紀を中心年代とし、『万葉』は8世紀前半を中心とするので、成立年代は、千数百年を隔てているが、いずれも古代詞華集として、成立する歴史的条件、および、文学的性格においても、両者が共通しているの、比較する価値があると考えている。

『詩経』はほとんど特定の作者がない歌謡であり、『万葉』は多くの作者があり、その家集さえあるという相違があるものの、両者は、同じ古代詞華集であるとして、比較論証している。詳しいことは省くが、著者は、前期『万葉集』の作歌者とされるものうち、物語的事件に関する歌は、ほとんど巫祝かしろ的集団によって伝承されたものであるという。従って、冒頭の2首も、後に上げる大伯皇女の歌とされているものも、全てが皇女ひめみの作とは限らないと言う。また、相聞歌が呪的な魂振歌たまふりうたに変わってゆくのだとも言っている。

実は、『初期万葉論』を読んでいて、そうだった、と昔を思い出した。高校のとき、最初に上げた2首をはじめ、何首かをひとりで読んでいて、大津皇子が、伊勢に居る姉に会いに来たとき、密かにとはいえず、皇子の行動が、誰かに見つけられ、密告されはしないだ

ろうか。姉弟の間柄というより、これは恋するものの歌ではないか。それにしてもどうしてこの歌が他人に伝えられ、知れ渡り、『万葉集』に載せられたのだろう。大伯皇女が詠んだものを、彼女の家のものが、後になって書き残したのだろうか、ドキドキしながら考えた。

結局教師が、これは伝承歌だと説明するのを聞いて、ほっとしたような、がっかりしたようなことまで思い出した。

単純なわたしは、それ以来、『万葉集』を是非読んで見たいと思ひ、題詞と歌のみで、しかも仮名点字ではあるが、全巻、対面朗読という手段で、書き写させていたのだのである。

点字では短歌1首だけでも2行を使う。語釈も、注釈も、その場で読んでいただくだけという無茶なことをした。長歌もある。長い題詞もある。4516首の中には、題詞の他に漢文のところもあり、それも読み下し文で読んでいただいた。書くことに専念しながらも、時々しんみりして休みがちな手を賢明に動かし、後でじっくり読もうと励んだ。紙数をかなり節約したわたしなので、点字用紙2千ページ強で納まった。

その後、20年余りのあいだに、折に触れて、適宜、袋に分けてしまつてあるものを、どの辺りと決めずに引き出して、パラパラ読んできた。そして、今回白川

静氏の著書『初期万葉論』を読んで、改めて、挽歌、相聞歌、東歌、防人の歌の辺りを読んでみた。まだまだ今のわたしは、挽歌に惹かれるが、相聞の中にも、胸を打たれるものが多い。そして、防人の歌と同等に、新羅へ使人として遣わされて行った人々と、その家族の歌や、流罪の憂き目にあつた人たちの悲哀にも涙ぐんだ。

4516首書き終えたところに、「1989（平成1）年2月5日、日曜、歌のみ全巻終了。1981（昭和56）年冬よりはじめ、およそ8年を要せり。」と記し、さらに簡単にわたしの、その日の興奮ぶりがメモに残っているのを見て、改めて8年にも及ぶ長い間、平均毎週1回2時間の対面朗読をしてくださった、斉藤宮子さんに熱い感謝を述べずにはいられない。この間に、斉藤さんは結婚（旧姓柴崎）なさり、わたしは、夫の父の死、わたしの母と兄の死、わたし自身の入院といういろいろあつた。

最後に『万葉集』のごく一部に過ぎないが、今回読んだ中から何首かを写させていただく。

なお、仮名点字で写させていただいた原本は、桜井満訳注、『現代語訳対照万葉集』（旺文社、1975年4月25日初版、1979年12版）の文庫本、全3巻である。

吾妹児わがもこに戀こひつつあらずは秋萩あきあきの
咲さきて散ちりぬる花はなにあらましを

2・120

小竹こたけの葉ははみ山やまもさやに亂みだげども

われは妹いも思おもふ別わかれ來きぬれば 2・133

うつそみの人ひとにあるわれや明日あしたよりは

二上山ふたかみを弟いづせ世よとわが見みむ

大おほ伯おと皇みかど女め 2・165

磯いそのうへに生おふる馬あし醉し木きを手て折おらめど

見みすべき君きみがありと言いはなくに

大おほ伯おと皇みかど女め 2・166

埼さい玉たまの津つに居おる船ふねの風かぜを疾いたみ

綱つなは絶たゆとも言いな絶たえそね

東とう歌か 14・3380

ま遠とほほくの雲う居ゐに見みゆる妹いもが家へに

いつか到いたらむ歩あめ吾われが駒こま

東とう歌か 14・3441

君きみが行いく道みちのながてを繰くり疊かさねね

焼やきほるぼさむ天あめの火かもがも

東とう歌か 15・3724

歸かへりける人ひと來きたりといひしかば

ほとほと死しにき君きみかと思おもひて

乙おとこ女め 15・3772

わが背せ子が歸かへり來きたまさむ時の爲ため

命いのち殘のこさむ忘わすれたまふな

乙おとこ女め 15・3774

わが妻つまはいたく戀こひらし飲のむ水みづに

影かげさへ見みえて世よに忘わすられず

防ぼうえん人の歌うた 20・4322

父ちち母ははも花はなにもがもや草くさ枕まくら

旅たびは行くとも捧たげて行いかむ

防ぼうえん人の歌うた 20・4325

(2010年4月4日 日曜)

東京漢点字 学習会報告

東京漢点字羽化の会 菅野良之

平成21年度 第10回(第34回) 報告

1 日時 平成22年1月23日(土) 18時30分～20時40分

2 場所 ヒューマンプラザ7階 第1会議室

3 出席者(省略)

4 使用教材

漢点字講習用 テキスト 初級編

第三回(全十回)・第四回 点字編、墨字編

レーズライター…尺、寸、丈、里、貫、匁、斤、屯

5 学習会内容

(1) 連絡事項

・岡田さんの講演(1月26日のメールを参照)
・朝日新聞『漢字の森』10シリーズで6シリーズ目の漢点字を『うか』に掲載。

・障害の「害」の字の表記について妥当性が論じられている。「碍」「がい」など。

畠山さんが持参された新聞等の記事を紹介。

(2) 前回の復習

基本文字(3) 対あるいはグループをなす比較文字(2)

(17) 「東」 比(4・5の点)とヒ(1・2

・3・6の点)で表わす。

(18) 「西」 比とニ(1・2・3の点)で表わす。

(19) 「南」 比とミ(1・2・3・4・6の点)で表わす。

(20) 「北」 比とキ(1・2・6の点)で表わす。二人が背中合わせになっている様。

(21) 「鶴」 比とセ(1・2・4・5・6の点)で表わす。音のカクは左側部分による。

(22) 「亀」 比とメ(1・2・3・4・5・6の点)で表わす。

(3) 今回の学習

*「互」と「皆」 比較文字ではないが、比(4・

5の点)を使うのでこの章に含めた。

(23) 「互」 比(4・5の点)とラ下がり

(2・6の点)で表わす。音読みのゴは呉音。熟語に「お互い様」「互い違い」「互譲」「互選」他の読み方で「互に(かたみに(互いに。かわるがわる。の意味)」などがある。

(24) 「皆」 比と白(リ下がり・2・3・6

の点)で表わす。音読みのカイは漢音。字式は比/白。熟語に「皆伝」「皆目」「皆様」「悉皆(しつかい)みな。のこらず。ことごとく。の意味)」「場所に「皆生温泉(かいきおんせん)鳥取県西部の温泉地)」などがある。

*「凸」と「凹」

(26) 「凸」 比とレ(1・2・4・5の点)

で表わす。音読みのトツは漢音、トチは呉音であるが使われ方は不明。訓読みに「でこ」。熟語に「凸版」「凸起」他の読み方に「凸凹(でこぼこ。だくぼく。)」
「凸む(つぼく、む)突出する。凹凸がある。)」
「凸柑(ぼんかん。極柑とも書く。)」などがある。

(27) 「凹」 比とレ下がり(2・3・5・6

の点)で表わす。音読みのオウは漢音。訓読みに「くぼ。ぼこ。」がある。熟語に「凹溜り(くぼたまり)くぼんだ場所)」「凹地(くぼち)」「目凹(めくぼ)目のくぼんでいること)」「など

近似文字

「氏^ニ」 「低」の近似文字。元は刃物からきて
いる。音読みのシは漢音。熟語に「氏神（うじがみ）」
「氏子（うじこ）」 「彼氏」 「氏名」 「諸氏」 「杜氏
（とじ）。とうじ…酒づくりの職人）」 「某氏」他の読
み方に「氏上（このかみ…年長）」などがある。

テキスト 第四回

4 基本文字（3） 比較文字 長さ、重さ、容積
（度量衡）の単位。

* 長さと距離の単位を表わす比較文字。

(27) 「尺^ニ」 比とタ（1・3・5の点）で表
わす。指を広げた形に由来する。音読みのシヤクは呉
音、セキは漢音。一尺は約30・3センチメートル。
熟語に「縮尺」 「折り尺」 「尺八」 「尺断（しやくだ
ん…細かく切断する）」 「セキとしては」 「書尺（しよせ
き…てがみ。書状）」 「尺地（せきち…わずかな土
地）」 「尺紙（せきし…小さい紙。短い手紙）」他の
読みとして「油尺（あぶらさし…油の量をはかる物さ
し）」などがある。

(28) 「寸^ニ」 比とシ（1・2・5・6の点）
で表わす。音読みのスンは呉音。一寸は一尺の十分の
1。熟語に「採寸」 「原寸」 「胸三寸」 「寸暇」 「寸
隙」 「寸断」 「寸刻」 「寸志」 「寸胴（ずんどう）」

他の読みに「寸寸（ずたずた）」 「地名に「寸又峽（す
またきよう…静岡県北部、寸又川に沿う渓谷）」など
がある。

(29) 「丈^ニ」 比と3・4・5・6の点で表わ
す。音読みのジョウは呉音。一丈は一尺の10倍、約3
メートル。熟語に「居丈高（いたけだか）」 「襟丈
（えりたけ）」 「心丈夫」 「万丈（ばんじよう…非常
に高い）」 「黄八丈」地名に「八丈島」などがある。
(30) 「里^ニ」 比とリ（1・2・5の点）で表
わす。音読みのリは漢・呉音。一里は約3、927メ
ートル。熟語に「郷里」 「五里霧中」 「千里眼」 「一
瀉千里」 「十三里（さつまいも）」 「地名に「伊万里」 「
清里」 「九十九里」 「久里浜」 「七里ガ浜」 「箱根
八里」 「巴里」 「万里」 「伝奇小説に「南総里見八犬
伝」曲亭馬琴作。室町時代、安房の武将里見義実の女
伏姫が八房という犬の精に感じて生んだ、仁・義・礼
・智・忠・信・孝・悌の八徳の玉をもつ八犬士が、里
見家勃興のために活躍する。」など。

平成21年度 第11回（第35回）報告

- 1 日時 平成22年2月20日（土）18時30分～20時35分
- 2 場所 ヒューマンプラザ7階 第1会議室
- 3 出席者（省略）
- 4 使用教材

漢点字 講習用 テキスト 初級編

第四回(全十回) 点字編、墨字編

レーズライター…升、斗、北斗七星、同図、勺、
斥、丘。

5 学習会内容

(1) 連絡事項(省略)

(2) 前回の復習

基本文字(3) 対あるいはグループをなす

(23) 「互[⦿]」 比較文字(2)

(2・6の点)で表わす。糸を巻いた形。

(24) 「皆[⦿]」 比と白(リ下がり…2・3・6

の点)で表わす。互とともに比較文字ではないが、比較文字の比表示を用いている。

(25) 「凸[⦿]」 比とレ(1・2・4・5の点)

で表わす。

(26) 「凹[⦿]」 比とレ下がり(2・3・5・6の点)で表わす。

「氏[⦿]」 「低」の近似文字。ア(1の点)とン(3・5・6の点)で表わす。神様へのお供え物の肉を降ろして氏族で食べ結束を図った。

* 長さや距離の単位を表わす比較文字。

(27) 「尺[⦿]」 比とタ(1・3・5の点)で表わす。1尺は約30・3cm。

(28) 「寸[⦿]」 比とシ(1・2・5・6の点)で表わす。1寸は約3・03cm。

(29) 「丈[⦿]」 比と3・4・5・6の点で表わす。1丈は約3・03m。

(30) 「里[⦿]」 比とリ(1・2・5の点)で表わす。1里は約3、927m。ちなみに水平線までの距離は3海里。

(3) 今回の学習

* 重さの単位を表わす比較文字

(31) 「貫[⦿]」 比(4・5)とツ(1・3・4・

5の点)で表わす。音読みのカンは漢・呉音。1貫は約3・7kg。熟語に「貫禄」「終始一貫」「一貫性」「裸

一貫」「縦貫」「突貫」「貫主(天台宗の座主、本山・大寺の住持の敬称。管主に同じ)」「射貫く」「剝り貫

く」、人名に「紀貫之(平安時代の歌人。古今集の選者)」などがある。

(32) 「匁[⦿]」 比とヌ(1・3・4の点)で表わす。読みは国字。1匁は約3・75g。熟語に「只匁

(無料のこと)」「花一匁(子供の遊び)」などがある。

(33) 「斤[⦿]」 比とオ下がり(3・5の点)で表わす。斧の刃を表わしたもの。音読みは漢音、コ

ンは呉音。1斤は160匁、600g。熟語に「斤斤(キンキン…近づいて細かく見定める)」「斤斧(キン

見果てぬ夢を（十九）

山本優子



十六 見はてぬ夢を（承前）

さらに、増江には試練がやってきた。孝之進と共にまさに命を削って失敗を繰り返し、ついに完成した印刷機が使えなくなったことである。木で製作したものを資金提供のおかげで鉄製のものに仕上げることで、以来休む間もなく働き続けてきた印刷機だったが、次第に活字が摩滅してきていた。多額の資金を提供してくれた田中は既に他界してしまっており、活字補給のための資金はさっぱり集まらなかった。関係者は、点字印刷の必要と苦しい資金繰りの問題でずいぶん議論を重ねた。増江はいずれ資金が与えられることを信じて印刷機を大切にとっておくべきだと主張した。しかし、他の関係者は口をそろえて印刷機よりも優先させなくてはならないことがある、そもそもここまで経営困難に陥ったのは六光社の印刷事業のせいであって、訓盲院存続のためには印刷部門を解散するほかなないと対決姿勢を見せた。ついに増江は涙をのん

で、印刷機をくず鉄として引き渡すことに同意した。こうして六光社の働きは終わり、孝之進召天後休刊となっていた「あけぼの」も廃刊となった。

それから間もなく、資金繰りに関しての大事件が起こった。家主の島津藤輔（しまづ とうすけ）が、関の努力をくんで訓盲院の家賃滞納金を全額寄付というかたちで帳消しにすると宣言したのだ。院関係者の感激はたいへんなものだった。増江ももちろん嬉しかったが、ふと疑いが起こってきた。増江を除く訓盲院の関係者と島津との間で、秘かに話し合いがなされてきたのではないか？ 印刷機を処分し、六光社を閉じることによりこれ以上返済見込みのない出費を出さないということを条件にこの話が成立したのではないかということを感じたのだった。増江は自らの内でのそのことをぐずぐずと考えた。

一方今関は、訓盲院再起のために本格的に采配を振るい始めた。院内の雰囲気は急に明るくなり、一同が今関を中心に結束しているのを見ると、増江はこのような疑念を自分のうちだけにしまつて耐えるほかなかった。

（コウさん、四面楚歌って、こういうことだったんですか？）

亡き夫に心の中でそんなことを語りかけた自分には
つと驚いたりする。増江は、自分が設立者という肩書
きを与えられているだけで、すでに訓盲院にいる必要
がないのを感じた。

院舎を掃き清めながら祈り、考えた。

（孝之進とわたしは何もないところからここまで導
かれてきた。また何もないところから、わたしは出発
しよう）

（苦勞をかけたね、これからは、自分の人生を生き
ていく番だよ）

と、孝之進が優しい笑顔で見つめてくれているよう
な気がした。

増江は、設立者の役を降り、一切を今関に託すこと
を関係者に伝えた。それは、そのまま受諾され、増江
は一九一四年（大正三年）三月二日付で、訓盲院を離
任することとなった。

訓盲院を去って、新しい人生を切り拓いていくとい
う内容の手紙を故郷の年老いた父に送った。荷物をま
とめて大阪に移り、遠縁の者の紹介で貧しい女性たち
の「駆け込み寺」的施設で賄い婦をすることにしたの
だった。父今村虹助は、非常に驚いたらしくさっそく

増江に返信を送ってよこした。兄たちが万事よくやつ
てくれているから、生活上困ることはない、故郷に戻
りなさいという愛情に満ちた言葉が美しい筆でしたた
められていた。繰り返して読んで増江は声をあげて泣い
た。

何日か神に向かって駄々をこね、考えた。

（主よ、実家に戻って、父や兄たちに頼ってしまっ
ていいのでしょうか……）

施設で増江が世話を始めた少女たちの中には、増江
に嫌悪感をあらわにする者もいた。一方、何でも増江
にしてもらおうとする女性もいた。

（今しばらくは、この人たちに仕えよう）

どんなところに置かれても、使命があるのだと増江
は考えようとした。父に、手紙を書いた。

「御父上様、心痛を加へしこと、遺憾に存じ上げ
候。心底よりのお詫びと感謝を申しあぐるばかりな
り。されど、我大阪に住まむ。新たなる使命への天啓
我に迫るゆえ、わが道を全うするを願はざるを得ん
や。今日まで見果てぬ夢を追ひきしが、この先天にて
懐かしき面々と再びまみゆる日まで、それを追求せむ
とぞ存じたてまつる……」

父への手紙を書き終えると、増江は解放された気分

になった。四十代後半からの第二の人生、新たな夢を持ち、生かされている限り走るべき行程を走りぬくことを願った。

その後増江が大阪で約五年間をどのように過ごしたかを知る人は、今はない。左近允増江は、一九一九年（大正八年）二月七日、五十三歳の誕生日を前に地上での生涯を閉じた。最期まで遠方から娘を想い続けていた父虹助は同年十一月、九十一歳で他界した。孝之進、増江、母千代は、神戸の鶴越（ひよどりごえ）墓苑に葬られている。

増江が去ってからの訓盲院では、極度の資金不足をはじめ数多くの試練を抱えながらも、設立者兼院長となった今関秀雄の努力の実が徐々に世の中に認められるようになっていった。神戸市からの助成受給へ、さらに県立学校への移管へと道が開かれ、一九二五年（大正十四年）四月、兵庫県立盲学校として新たな出発をした。巣立っていった約二千五百人の卒業生は、日本国内だけでなく世界のあちこちで、それぞれの人生を全うしている。日本の盲教育史上欠かせない役割を果たしてきた兵庫県立盲学校は、二〇〇五年創立百周年を迎えた。

☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆

浩二さんを前に、わたしは原稿を読んだ感想を言うとしていた。

「感動しました」だけでは、浩二さんはがっかりするから、気のきいたせりふを考えようとしていたけれど、思いつかなくて結局、

「ひとまずこれでええんちゃう？」
と、ひどいことを言ってしまった。

すると、浩二さんは、たずねてきた。

「この伝記、どっからどこまでフィクションやと思つた？」

「そんなん、わからへんかったわ」

「左近允先生のこと、わからんことだらけや言うたやろ。それで結局、おれの中に湧きあがってくる先生のイメージをふくらませてこの小説書いていった。書きながら自分も左近允先生の夢を継いでるんや、想つたりして……」

「ふーん」

「ぼくの書く左近允伝はひとまず終わりやけど、これから研究する人が出てきて、先生のことをもっといろいろわかってくるのを期待してんねん」

「まだまだ研究する余地あるんですね」

「もちろん。裏づけになる資料がこんなに少ないんはびっくりやった。けど、きっとこれからも資料が出てくると思いたいねん」

わたしは冗談のつもりで言った。

「将来浩二さんの伝記を書きたくなる人が出てきたときのために自分の日記とか成績表とか、大事にとっておいたらいいかもね」

意外にも浩二さんは真顔で言った。

「そのとおり。今回、増江さんの実家の今村さん一家と出会えたおかげで増江さんの卒業証書とか達筆な書道の作品とか、おもしろいもんが出てきたんやから」

「じゃあ、わたしもガラクタをあんまり捨てないようにしよう」

「そうしい。左近允先生がそうやったように、あと百年たったら、ぼくらは絶対この地上に生きてへんし、ぼくらのこと知ってる人もおらんようになるんやから」

当たり前のことなんだけど、わたしはちよつとドキッとした。

「左近允先生のすごいところは、百年後に自分が生きてなくてもこんな盲学校になつてほしい、こうい

う社会に変わってほしいいつちゆう夢を持ち続けて、そのために働きはったところやと思う」

「うんうん」

「だから、読みやすうて、そのスピリットをちよつとでも感じてもらえたら、フィクションがいっぱい入った伝記でもええんやないかと思った。左近允先生のこと、忘れられて欲しいないからな」

ふと、思い浮かんだことをわたしは言った。

「忘れられてしまう……か」

「そう。けど、これ書きながら、思つてん。左近允先生が信じてはった人間の造り主やったたら、ぼくのことかて忘れはらへんはずやつてな」

浩二さんの顔は、今までになく輝いて見えた。失明したころの左近允さんと同じくらいの年齢なんやなと、わたしは、思った。

(完)

※注 呼称に関しては時代を考慮し、本文中では「盲人」、サブタイトルでは

「視覚障害者」という言葉を使用しました。

※おわび 先月号の当欄で、一部文章がダブった部分がありました。その分、削除されることをお願いしてお詫びいたします。

漢文のページ

桃源郷(二)

具_{サニ}勿_シ論_ニ所_レ聞_ク皆_レ嘆_ス惋_ス。
 言_フ魏_・晋_ニ。此_レ人_一一_一為_ニ
 「今_ハ是_レ何_ノ世_ゾ」乃_チ不_レ知_ラ有_ル漢_、
 焉_ニ遂_ニ与_ニ外_人間_隔。問_フ
 邑_人來_ニ此_絶境_、不_ニ復_出
 「先_世避_ケ秦_ノ時_乱、率_ニ妻_子
 有_ニ此_人、咸_來問_訊。自_云、
 設_ケ酒_ヲ殺_シ雞_ヲ作_ル食_ヲ。村_中聞_レ
 從_リ來_{。具}答_レ之_{。便}要_還家_、
 見_テ漁_人、乃_チ大_イ驚_キ問_フ所_ヲ
 還_リ、酒_ヲ設_ケ雞_ヲ殺_シて食_ヲ作_ル。村_中此
 の人_有るを聞_キ、咸_來たりて問_訊す。自_ら云_い
 う、「先_世秦_ノ時_乱を避_ケ、妻_子邑_人を率_い
 て此_ノ絶_境に來_{たり}、復_出でず。遂_ニ外_人と
 間_隔す」。問_う、「今_ハ是_レ何_ノ世_ゾ」。乃_チ
 漢_有るを知ら_ず、魏_・晋_ニ論_勿し。此_ノ人
 一_一為_ニに具_{サニ}に聞_ク所_ヲを言_フ。皆_レ嘆_ス惋_ス。

漁人を見て乃ち大いに驚き、従りて來たる

所を問う。具さに之に答う。便ち要して家に

還り、酒を設け鶏を殺して食を作る。村中此

の人有るを聞き、咸來たりて問訊す。自ら云

う、「先世秦時の乱を避け、妻子邑人を率い

て此の絶境に來たり、復出でず。遂に外人と

間隔す」。問う、「今は是れ何の世ぞ」。乃

ち漢有るを知らず、魏・晋に論勿し。此の人

一一為に具さに聞く所を言う。皆嘆惋す。

要して(村人は漁師を)誘つて。

要はもとめる、たのむ意。

問訊(挨拶する) 邑人(村人)

今は何世(今は何という王朝の時代ですか?)

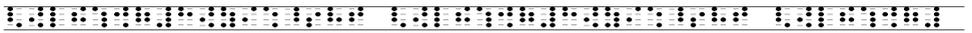
勿論(論なし) いうまでもない(勿論)。

此人(漁師) 為に(村人の為に)

嘆惋(おどろきの感に打たれる)。

(参照図書) 奥平卓『漢文の読みかた』

(岩波ジュニア新書)



見テ漁人ヲ、乃チ大イニ驚
 キ、問フ所ヲ從リテ来タル。
 具サニ答フ之ニ。便チ要
 シテ還リ家ニ、設ケ酒ヲ殺
 シテ鶏ヲ作ル食ヲ。村中聞
 キ有ルヲ此ノ人、咸来タリテ
 問訊ス。自ラ云フ、「先世避
 ケ秦時ノ乱ヲ、率中テ妻子
 邑人ヲ来タリ此ノ絶境ニ、
 不復出デ焉。遂ニ与外人
 間隔ス」。問フ、「今ハ是レ何
 ノ世ゾ」。乃チ不知ラ有
 ルヲ漢、勿シ論魏・晋
 ニ。此ノ人一為ニ具サニ言フ
 所ヲ聞ク。
 皆嘆ス。

～ 立心偏+宛 わん





漢点字講習用テキスト

初級編 第十九回

7. 漢数字および第一基本文字を部首とした文字 (7)

この回が、初級編の「漢数字および第一基本文字を部首とした文字」の最後です。

※「更^日」とそれを部首として含む文字一つ。

(1 2 1) 更^日 コウ キョウ さらに - に ふ - ける
ふ - かす あらた - める か - える か - わる

横線の下に「日^日」、横線の中央から「日^日」の中央を通して縦線があり、下で右斜め線と「人^人」の字型に交差させた形の文字です。「人^人」の字型の右斜め線は、左上に少し交差して出ます。「人^人」の字型は、脚を開いて突っ張る形で、弛んだものを引き締めることを表します。「さらに^人」と読んで、一段と、その上への意味に、あるいは「さらに…なし^人」と打ち消しを伴う使い方をします。「あらためる、かえる^人」と読んで、ものごとの在り方をかえる、順序をかえる、引き締めるの意味、「ふける^人」と読んで、経験を積む、夜がふけるという意味に用いられます。漢点字では、「^日 (日)」と「^人 (人)」で表されます。人の字型の形を、「人^人」と捕らえました。

「更改」「更新」「更迭」「更衣室」「更正」「更生」「衣更え」「更け行く秋の夜」

(1 2 2) 便^人 ベン ビン たよ - り

「人^人偏」の右側に「更^日」を置いた形の文字です。ものごとを行うのに都合のよい様子、ものごとがするすると運ぶ様子を表す文字です。「便利、便宜^人」と用いて、容易い、都合がよいの意味に、「郵便、航空便^人」と用いて「たより^人」の意味に、また、船や航空機の運航をも表します。さらに、肉体の新陳代謝、排泄の意味にも用いられます。漢点字では、「^人 (人偏)」と「^更 (更)」で表されます。人偏は、第二人偏を採用しました。



「便利」「便宜」「郵便」「航空便」「便箋」「船便」「風の便り」

※「能^ㇿ」とそれを部首として含む文字一つ。

(123) 能^ㇿ ノウ あた-う よ-い

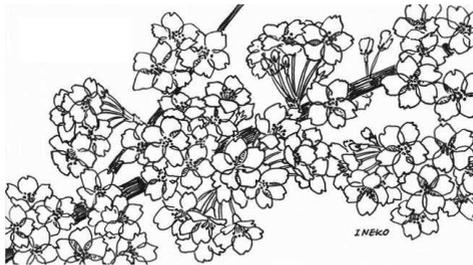
左側はカタカナの「ム」の下に「月^ㇿ」、右側には、縦にカタカナの「ヒ」が二つ置かれた形の文字です。「月^ㇿ」は「肉^ㇿ」で、カタカナの「ム」の形と一緒に、粘り強い力を意味しています。「あたう、よい」と読んで、能力がある、成し遂げる力がある、その力を持った人を表します。また、古典芸能の「能楽」のことであります。漢点字では、「^ㇿ (月)」と「ノウ」の音の「^ㇿ (ノ)」で表されます。右側の部首は、人を象ったものですが、点字の部首符号は、他に用いられないことから、作られませんでした。

「能力」「能筆」「能弁」「能楽」「能率」「可能性」「機能的」

(124) 態^ㇿ タイ すがた わざ-と

「能^ㇿ」の下に「心^ㇿ」を置いた形の文字です。「能^ㇿ」は、成し得るだけの力のあることを表す文字です。それに「心^ㇿ」を加えて、「そのようにできる」という、心構えや「すがた」という意味を表します。さらに「わざと、ことさらに」と、上辺をつくろうという意味にも用いられます。漢点字では、「^ㇿ (能)」と「^ㇿ (心)」で表されます。

「態度」「態勢」「状態」「動態」



「報告とご案内」

一 田園調布ボランティアセンターで

来る五月二七日（木）、一四〇〇から、東京都大田区にある、田園調布ボランティアセンターにおいて、岡田が、お話しさせていただくことになりました。

田園調布ボランティアセンターは、田園調布カトリック教会に併設されている施設で、各方面のボランティア活動の拠点として支援しておられます。

岡田は、同センターで活動しておられる音訳グループ「森の会」の音訳サービスを、長く受けております。現在も朝日歌壇・俳壇の音訳版を製作しております。本会の読者の皆様にも、漢点字版とともに音訳版をご利用の方は、同会のお名前をお聞きになれば、親しみを覚えられるものと存じます。

森の会の皆様には長年お世話になって参りました。視覚障害者の読書は、同会のようなボランティア活動が支えて下さっています。具体的なサービスの内容にも触れながら、視覚障害者の読書について、感謝とともにお話しさせていただく積もりです。

後半には漢点字のお話と、少し本会の活動のPRを



加えさせていただこうと考えております。ボランティアセンターの皆様、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

二 漢点字講習会

二〇一〇年度も引き続き、漢点字講習会を開催します。ご参加をご希望の方は、日程等ご確認の上、お申し込み下さい。

横浜では五月五日が初回です。

初回、日時 五月五日、一四〇〇～一六〇〇

会場… 横浜市社会福祉協議会、ボランティアセン

ター八F、ボランティアコーナー（JR・横浜市営地下鉄、桜木町駅下車）

東京でも同様に漢点字の学習会を行っております。

会場は港区ヒューマンプラザ7F、会議室一（JR・浜松町駅、都営地下鉄浅草線・大門駅、大江戸線・大門浜松町駅下車）

多数のご参加をお待ち申し上げます。

三 会員募集講座

① 横浜漢点字羽化の会

横浜漢点字羽化の会では、九月から十月にかけて、

ボランティア会員を募集するための講座を開催します。

漢点字訳ボランティア活動にご参加いただける皆様、どしどしお申し込み下さい。

②東京漢点字羽化の会

東京漢点字羽化の会でも、十月・十一月を目標に、会員募集の講座を計画しております。

①②ともに、漢点字のあらまし、パソコン入力と校正、漢点字変換プログラム・EIBRKWについてお話す予定です。

詳細は本誌次号にてご案内致します。

四 予告

本号から、「漢点字の散歩」の中で、「漢点字紹介」を連載致します。

かつて川上先生が、「漢点字入門」をお作りになり、多方面に配布なされました。漢点字のPRに、大きな力になったものと存じます。現在でもそのように漢点字をご紹介できる冊子が必要であることは、以前より痛感しております。

そこで遅きに失しているとは存じますが、本誌紙上

でそのような試みを行ってみたいと考えます。無事終えることができず暁には、小さなパンフレットにまとめたいと考えております。
読者諸兄弟のご笑覧を賜り、ご鞭撻を賜れば幸甚に存じます。

一口メモ

ウィンドウズ・ビスタに代わって、セブンが登場しました。操作が軽快であるとか、扱いやすいとか、評判は上々のようです。しかし、ずっと古くからのソフトをお使いの皆さんにとって、こういう新しいOSが誕生する度に今まで使っていたソフトがちゃんと動くかどうか、心配の種になります。漢点字変換ソフトであるEibrkwも、その動作確認をするまでは心配でしたが、ちゃんと動きました。これで一安心という所です。ということで、Eibrkwはウィンドウズに関してはどのバージョンでも使えますが、一部の方に愛用されているマックには残念ながら対応していません。したがって、新たに漢点字変換の作業にご興味をお持ちの方は、もしパソコンを購入される場合は、是非ウィンドウズ・パソコンをお使いいただくようお願い致します。

(木下 和久)

編集後記

▼「見果てぬ夢を」、長期間にわたりご愛読いただき、ありがとうございました。あと、あととごさいました。

がきなど1回で終了となる予定です▼最近のパソコン用プリンターの性能向上と価格の下落には驚かされません。特に万能型という、プリンターの他にコピーやスキャナーの機能を備えたものは優れたものです。そのコピー機としての性能は、十分に実用に耐えるもので、欲をいえば最初の1枚などちよっと時間がかかりいらさせられますが、続けて何枚もとる場合には結構速いものです。そして、ありがたいことは、カラーコピーがインク代の負担増のみでトータルとして非常に低コストで可能となることです。コンビニのコピー機をお使いになる機会が多い方には是非こういう便利機器を利用されることをお奨めします▼ただ、右記の便利機器も、大部分がA4版用で、それより大きなサイズには対応していません。最近A3版対応の万能型プリンターを購入しましたが、どうも紙送り機構が今ひとつという感じで、しょっちゅう2枚同時に送ったり、印刷位置がずれたりという不具合を発生します。以前から使っているキヤノン製のプリンターはそういう点で非常に安定しており、老舗メーカーの実力が感じられます。

(木下 和久)

(有) 横浜トランスファ福祉サービス

障害者自立支援法の下、障害者にガイドヘルパーを派遣して、外出を支援しています。対象は、横浜市在住・在宅の、視覚・肢体・知的重度障害者。

常時募集・ガイドヘルパー：資格・ホームヘルパー2級以上、および視覚・肢体障害者移動介護研修修了。

業務概要：上記障害者の外出支援。詳細は担当・柳田まで。



〒231-0063横浜市中区花咲町1-46-1

GSプラザ桜木町1104

電話： 045-263-0306

FAX： 045-263-0316

E-MAIL (岡田健嗣) : okada_tr_eib@ybb.ne.jp

横浜漢点字羽化の会 URL : <http://ukanokai.web.infoseek.co.jp>

《表紙絵 岡 稲子》 次回の発行は 6月15日です。

※本誌(活字版・DAISY版・ディスク版)の無断転載は固くお断りします。